

「八郎太郎伝説」の湖、八郎潟—
 “水1升到魚7合”、魚湧くといわれたわが国第二の湖、八郎潟。
 だが、国は戦後の食料増産を目的に
 20年の歳月と852億の巨費を投じ、湖を干拓。
 湖は5分の1の残存湖(調整池)となる。
 そして、半世紀—

日本の大規模農業モデル地域として誕生した大潟村が
 待ち受けていたのは国の減反政策だった。

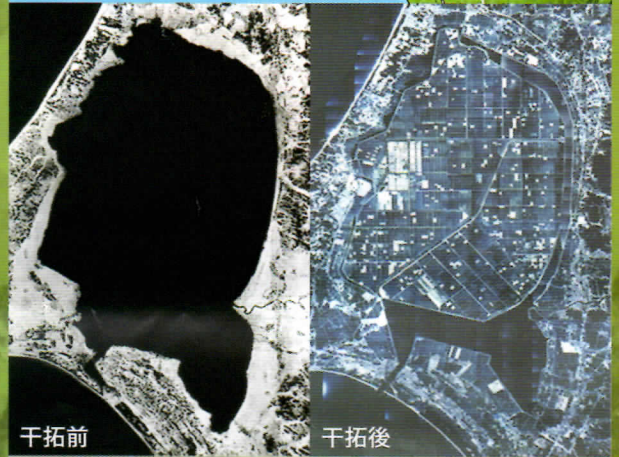
一方、アオコの大量発生を生むようになった湖は
 水質の悪化を辿り、漁業不振を招いた。

元漁師はいう、
 「とにかく人が手を加えると、
 山も湖も、必ずそのツケは
 回ってくるね。」と…

里湖

さと うみ

八郎潟物語



干拓前

干拓後

写真提供: 大潟村干拓博物館



2010 子どもフォーラム



防潮水門

構成・内容

- プロローグ(八郎太郎伝説)
- 八郎潟 干拓史
- 汚染した八郎潟の課題
- 里山 草木谷の復活
- 出前授業(大久保小学校)
- 東湖八坂神社祭 アオコ発生
- 2010子どもフォーラム
- 外来魚 捕獲と魚粉作り
- 一日市の盆踊り
- ワカサギ・シラウオ漁解禁
- ブナ植林と消波堤作り
- 大潟村 甦った大自然(観察会)
- 船越水道(汽水域)の漁
- 提言“里湖”への回帰
- エピソード(大久保小学校・引継ぎ式)

「八郎潟干拓、やっとわかった！」

浅利香津代 (女優・秋田出身)

故郷秋田で中学生だった頃、毎晩の様子が家にいるような年代の方々が祖父末吉を囲みケンケンガクガク、聞こえてくるのは「八郎潟〜」「干拓〜」という単語、地元紙新聞にも毎日の様にこの二文字、大好きなひばりちゃん錦ちゃんの映画を観に行ってもニュースで出てくる。大事件だった!でも何だかよく事情がわからなかった…岩崎監督のこの映画でナレーションをやらせて頂いて良くわかった!画面の現地の方にボソボソ秋田訛りで質問している声がばかにリアルで味があった!当の岩崎監督だった!ガハハハ!



「深い悲しみと大なる希望」

橋本五郎 (読売新聞特別編集委員)

岩崎さん、やりましたね。全身で「心のふるさと」八郎潟を再現しましたね。単なる郷愁を超えて、科学的な分析を交えながら、干拓によって失われたものの大きさを私たちに突きつけ、再生への道を示しています。この映画には深い「悲しみ」と大なる「希望」があります。子どもたちの「学び」にそれがよく表れています。浅利さんの秋田弁と標準語(?)の縦横な語り口が、ふるさとというもののリアリティを深めています。「ぐんじ」などと監督がインタビューしている声を差し挟んでいるのがまた効果的です。「ふるさと再生」を心から望んでいる皆さんにも見てもらいたいですね。

「走馬灯のように」

西木正明 (作家)

およそ半世紀前の晩夏、わたしは男鹿半島の根本にある寒風山の頂上で、眼下に広がる八郎潟に見入っていた。琵琶湖に次いで日本で二番目に大きい湖。その湖面が過ぎ行く夏の午後の日差しを浴びて、絢爛かつどこか寂しげに輝いていた。今、寒風山の頂上に立つと、かならずあの時の情景が目には浮かぶ。あれは幻だったのだろうか。『里湖・八郎潟物語』は、その現実と幻の間に横たわる多くの出来事と、今を結ぶ時空をていねいかつ完璧に描ききった、走馬灯のような作品である。

「拘りの映画だ」

船戸与一 (作家)

疲弊する地方。農、林、漁業をないがしろしてきたツケがまわっている。東日本大震災の自然の猛威。何かが変わらねばならない。作者は東北、秋田出身。郷里に一筋の光明見ようとする拘りが映画を産んだ。

映画「里湖 八郎潟物語」上映会

7月12日(火) 開場14:00
 <第一回上映> 14:30~16:00
 <第二回上映> 16:30~18:00
 <第三回上映> 19:00~20:30

7月13日(水) 開場10:30
 <第一回上映> 11:00~12:30
 <第二回上映> 14:30~16:00

会場: 牛込筆筈区民ホール 都営大江戸線「牛込神楽坂」A1出口より徒歩0分
 東京メトロ東西線「神楽坂」2番出口より徒歩10分

特別鑑賞券

大人 1,000円(前売)
 1,200円(当日)

中・高生 500円

(小学生無料)

●お問い合わせ

(株)群像舎

〒162-0805
 東京都新宿区矢来町110-8
 ジェントリー神楽坂601
 TEL: 03-3267-3997
 FAX: 03-3267-3977
 E-mail: gunzosha@gf6.so-net.ne.jp